

私の酪農経営への夢 ～あほづら牧場への道のり～

八ヶ岳中央農業実践大学校 専修科 2年 山極 さくら

牛と聞いてイメージするのは、白黒の斑点模様です。ですが、大学校で出会ったのです、全身ほぼ真っ白な牛に。私はその牛に一目惚れしてしまいました。ただ白だけでなく、あほみtainな顔をしていたので、より一層惹かれました。私はあほな顔をした牛、いわゆるあほづらな牛のみを飼養する牧場を作りたいと考えたのです。あほづらとは、ほとんど黒い模様が無く、白くて鼻が真っピンクの牛のことで、他の牛にはないものを持っているに違いないと思いました。

私は小さい頃から動物が大好きで、獣医に憧れを持ったり、あちこちの水族館でイルカを自由自在に操る姿に憧れ、イルカの調教師に興味を持ったりしました。また、高校生の頃にはドッグトレーナーの学校に短期間研修へ行き、朝早くから犬の餌やり、水やり、小屋の中の掃除、預かっている犬のしつけ、トレーニングをしました。なかなか言う事を聞いてくれない犬も、何回も訓練していくうちに言う事を聞いてくれる様になりました。言葉の通じない犬と心を通わせてしつける事の難しさと、しつけて利口にさせる事の素晴らしさを学びました。

私の「酪農」との出会いは、小さい頃に訪れた数々の牧場です。高校卒業後の進路を決める際に、就職した方が親のためになるのではないかと、大学に行くとお金が掛かり、迷惑を掛けてしまうのではと悩んでいた時、高校の担任の先生から「農業大学校」を勧められました。その時は、農業については何も知らず、正直農業というものが出るのか心配でした。しかし、勧められた大学校を見学したところ「酪農」に興味を持ち、学びたくなりました。農業大学校は、野菜・花卉・養鶏・酪農の実習を一通り回って、最終的に自分の進みたい所へ行くというシステムでした。私は酪農を学びに来たのに、なかなか酪農の実習が回ってこなかったため、休日や他の部の作業終了後を利用して牛に会いに行ったりし、早く酪農を学びたいという気持ちがより一層増しました。野菜や花卉、養鶏も学ぶ事はもちろん楽しくて、学んだ事や勉強した事はこれから先の人生で役に立つ時が来ると思うので損は無いですが、正直酪農だけを学びたいという気持ちがありました。そして、いよいよ酪農部に入り、本格的に専攻生として実習が始まり、最初は何もかもが初めてでわからない事が多く、不安もありましたが、それ以上にこの学校で牛と毎日一緒に過ごし、牛を自分の手で育てていく楽しみの方が強くて、毎日わくわくしていました。

現在八ヶ岳中央農業実践大学校の酪農部には、日本で初めての移動式搾乳機「MMP（モバイルミルクパーラー）」があり、放牧酪農に力を入れています。これまで牛舎でしか出来なかった搾乳を、管理者が放牧地にいる牛の元へ行き、現場で搾乳が出来ると聞いた時はとても感動しました。MMPと土地さえ確保できれば、酪農家には欠かせない

牛舎・堆肥舎・飼料庫が無くても経営が出来るため、新規就農するのであれば牛舎飼養するよりもお金を掛けずに就農出来る方法なので、新規就農するにはおすすです。現在の酪農家は大体の人が乳量にこだわっていて、1日あたり約70kgもの乳を出し、年間乳量2トンの乳を出す、スーパーカウという乳牛もいます。しかし、スーパーカウにするには遺伝的な能力に優れていたり、乳器が十分に発達しているなどの条件が整っていなければいけません。また、牛乳の栄養価や風味を高めるために、エネルギー含量の高い飼料を与えたり、手をかける必要があります。確かに酪農家は、乳量が出なければ収入が無いのでこだわるのは当然かもしれませんが、経費が収入よりも掛かってしまったら意味がありません。そのため、私が酪農家として経営していく際は経費を上げてまで乳量にこだわらず、配合飼料や購入飼料は出来るだけ与えず、放牧酪農を取り入れて経費を抑えたいです。餌は基本牧草のみで牛舎飼養の様に行動を抑制せずに、自由に草原を駆け回れる牛本来の生活をさせたいです。しかし、今の乳牛は配合飼料を与えないと生きていけないくらい弱い体になっています。そのため、まずは配合飼料を与えなくても生きていける強い体作りを研究し、実現させたいです。私の牧場でとれる牛乳は、あほづらな牛から搾られた、牛にも人にも優しい牛乳という事で、「あほづら牛乳」という名前を付け、ブランド化させて売っていきたいです。

あほづらな牛を揃える方法としては、雌牛に交配する種雄牛を白い牛に統一しようと考えています。白い牛を揃える理由として2つあります。1つ目は、私が今まで接した中で懐きやすく、飼養しやすいからです。2つ目は、白い牛がいると牧場が明るく見え、雰囲気も良くなると思ったからです。実際に大学で白い種雄牛を雌牛に交配したところ、その子牛はほぼ真っ白でした。また、同じ種雄牛を他の雌牛に受精した際にも結果は同じでした。大学では、雌牛は白くなくても種雄牛が白ければ白い子牛が産まれるという事が分かりました。実際に大学にいる牛を数えたところ、約140頭いて、その内自分の理想とする白い牛は17頭いました。

親孝行をする事も私の夢です。近い将来自分の牧場を持ち、一番お世話になっている親に感謝をする事が目的の1つです。そして、早く経営を安定させて、家族皆を旅行に連れて行きたいです。それを実現するには、自分が経営していく際に役立つ飼養方法や作業内容・管理の仕方を獲得するために、学校でさらに高度な技術を習得し、様々な牧場を見学し、少しでも沢山の情報を集めて今後に活かしていくことができる様に、残りの大学で生活で努力しなければなりません。

大学に入学してから1年半が経って、私の酪農に対する気持ちは入学する前よりも圧倒的に大きくなっています。酪農部の実習は朝4時半から始まり、夕方7時までです。野菜・花卉・養鶏に比べて実習時間も長く、他の人にとっては辛い肉体労働かもしれませんが、私にとっては

これこそ夢を実現するための道なので、楽しささえ感じられます。また、私は中学校時代3年間剣道をやっていたという事もあり、忍耐力には自信があります。しかし、自分で経営していくという事は簡単な事ではありません。一番大切なのは自分のやる気です。やる気さえあればどんな事でも大丈夫です。

私は、他の人よりも単位時間内の仕事量が多いです。牛との付き合いも1年半になり、牛の気持ちもよく分かってくる様になりました。牛達は好きな配合飼料が来ると、身を乗り出して目を輝かせてじっと見つめます。そして、私が行くと身を乗り出して目を輝かせて見つめてくるのです。

日本中、世界中から注目される、「あほづら牧場」を設立したいです。私のブランドの、「あほづら牛乳」をマスコミに取り上げてもらい、広く消費者に知ってもらう事も大切です。これについての勉強は、これからしていこうと思います。あほな顔をした真っ白な牛のみを放牧飼養し、酪農家として経営していきたいです。
